

Planning and CoordinationMACHINE TIME EXECUTIONREPORT (2004-2 CYCLE)

Experimental Group	T560	Reporter	岸本忠史
Scheduled Period and Shift	6/30-7/1 3 shifts	Main, Sub, Para	K2, Main
Experimenters 岸本忠史、野海博之、高橋仁、早川知克、他			
<p>SUMMARY OF EXECUTION AND RESULTS</p> <p>来年のE548実験（K中間子核及びX粒子の探索）に向けて以下の2点の測定を行った。</p> <p>1) K2ビームラインの1GeV/c近傍でのK⁻ビームの最大強度とその条件</p> <p>K⁻ビームの強度が、PSユーザズハンドブック記載値の1/3～1/5であるとの指摘があった。実際1/3程度であったが、プライマリービームを最大、スリットを全開、ターゲット位置を上流に移動することで、ほぼプロポーザル通りのビーム強度が得られることが分かった。今後2mほどKURAMA磁石を上流に移設する必要がある。</p> <p>2) 実験のトリガーレートのスタディ</p> <p>実験で観測予定の反応についてトリガーレートを測定した。（K⁻,n）に関しては既に問題ないが、（K⁻,p）と（K⁺,K⁺γ）に関しては今後の改善の必要性が判明した。原因も明らかに出来たので対策が立てられる。</p>			
<p>EXECUTED MACHINE TIME, BEAM CONDITION, DOWN TIME etc.</p> <p>当初6月30日からフルビームで開始予定が、E391aとの関係で29日からA:C=10:1のモードでスタートした。我々は実質的に2日出来、E391aは較正データが取れ、両者にとって有効な変更であった。</p>			
COMMENTS			